

おしえて!

# わん🐾にゃん通信



2015/03/01 No,03

日ごとに暖かくなり、身も心もほっこりしてくる今日この頃です。  
今回は、予防シーズンも始まったばかりの狂犬病についてお話ししたいと思います。

## <狂犬病とは?>

狂犬病とは言っても、犬だけで無く猫やフェレットなどすべての哺乳類が感染する病気です。また、野生動物として有名なのはアライグマやコウモリ、キツネ、マンガースなどです。そして、恐ろしいのが人間も感染してしまう人獣共通感染症だということです。

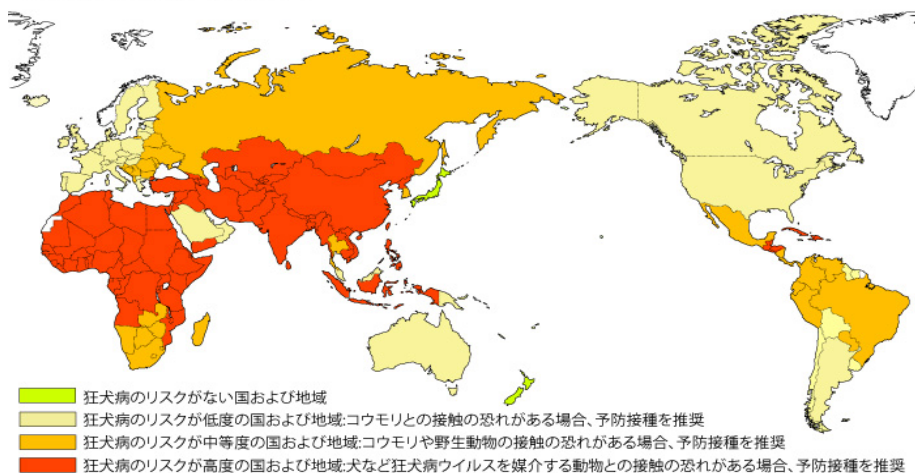


病原体である狂犬病ウイルスは発症動物の唾液に多く含まれ、噛まれた時などに傷口から感染し神経をおかします。

予防法はありますが有効な治療法はないため、発症してしまうとほぼ100%死亡してしまいます。現在、日本では発生してはいませんが海外で咬まれて帰国後に発症し死亡した例もあります。日本も含め狂犬病が発症していないのは一部の地域(アイスランド、オーストラリア、ニュージーランド、フィジー諸島、ハワイ、グアム)だけで、海外では毎年55,000人程が亡くなっています。また、日本と同じ島国の台湾はそれまで発生していなかったのにも関わらず、2013年に狂犬病が発生してしまいました。

このように、狂犬病はいつ、どこから入ってくるか分かりません。  
狂犬病を広めないためにも、狂犬病予防ワクチンの接種はとても大切です。

狂犬病のリスクのある国



## <犬が狂犬病に感染すると…>

感染してから発症までの潜伏期間は約2週間から2か月程とされています。

咬傷部位が脳に近ければ近いほど潜伏期間は短いとされています。

発症すると性格が変わり攻撃的になったり、また逆に警戒心がなくなったりと、主に神経症状を引き起こします。

特徴的な症状としては、

- ・目の前のものに理由もなく、何にでも噛みつく
- ・食べ物ではないものを食べる(異嗜)
- ・遠吠え、性格の変化、横座り
- ・舌が力なく垂れ下がっている
- ・水の異常な舐め方、嚥下困難
- ・不安定な歩行(失調性歩行)
- ・流涎、意識障害



…などがあります。

そして、最終的には昏睡状態におちいり死んでしまいます。

## <予防法は？>

年に1度狂犬病予防ワクチンを接種することで予防できます。

また、日本では狂犬病予防法により狂犬病予防ワクチンの接種が義務付けられています。

### ～狂犬病予防法～

犬の飼い主は、生後91日齢以上の犬を飼育する時、その犬を所有してから30日以内に市町村に登録し鑑札の交付を受ける。また、年に1度の狂犬病予防ワクチンを接種し、注射済票の交付を受ける。鑑札と済票は必ず犬に付けておかなければならない。

鑑札と済票を付けていなければ、その犬は捕獲・抑留の対象となり、飼い主は20万円以下の罰金となる。

Q：狂犬病予防ワクチンは接種しないといけないの？

A：接種する必要があります。

アジア地域の、狂犬病まん延地域では犬が主なまん延源となっています。

近隣国でも発生しているのでいつ日本に入ってきてもおかしくありません。

狂犬病予防ワクチンを接種していればもし日本に狂犬病が入ってきたとしても、

犬でのまん延を防ぐことができ人への被害を最小限に防ぐこともできます。

また、海外旅行などに犬を連れて行くときには必ず狂犬病予防ワクチンの接種が必要です。

3月2日から6月30日までは狂犬病予防ワクチンの接種期間です。

シンドウ動物病院

